

(科目名) 文化・科学一体型コミュニケーション論			(群)	拡大科目群
			(系)	地域交流・貢献科目
			(開講期)	前期
			(授業形態)	講義
			(対象回生)	1-2 回生
			(対象学生)	全学学生
(所属部局)	(職名)	(氏名)		
教育学研究科	教授	高見 茂		
教育学研究科	准教授	服部 憲児		
学際融合教育研究推進センター				
地域連携教育研究推進ユニット	特定助教	桐村 豪文		
学際融合教育研究推進センター				
地域連携教育研究推進ユニット	特定助教	江上 直樹		
(授業の概要・目的)				
<p>東日本大震災を経て、私たちは科学技術のもつリスクとどう向き合うべきかを考え直さざるをえなくなった。特にトランス・サイエンスの領域、「科学によって問うことはできるが、科学によって応えることのできない問題群から成る領域」においては、市民も専門家と同等の立場にあり、科学と向き合い対話を続ける責任をもっている。しかし市民と専門家との対話は、一方的に「科学」(の正しさ)を学ばせるものではなく、また非日常的な場(イベント等)において情報を与えるだけでなく、市民の日常的な文化的営みの中において“科学との対話”が為されるようなものでなければならない。科学コミュニケーションは、市民のまちづくりと連動したものとなる必要がある。</p> <p>この授業は、科学コミュニケーションの基礎を学ぶとともに、文化・科学一体型のコミュニケーションを実践している関西学研都市圏の場合を事例に、まちづくりの観点から「科学」を捉え直す機会を提供する。</p> <p>なお本授業は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(京都学教育プログラム)の一環として開講されるものである。その目的は、単に京都に関する事柄を学ぶのではなく、京都が抱える諸課題を手掛かりに、わが国や世界の未来を想像(創造)できるための基礎を培うことにある。</p>				
(授業計画と内容)				
<p>本事業では、関西学研都市で科学コミュニケーション活動を実践している NPO、研究機関のネットワークを活用し、在野の研究者、実践家といった大学外の専門家をゲストスピーカーとして招聘し、一部講義を行う。ゲストスピーカーとして高橋克忠氏(特定非営利活動法人けいはんな文化学術協会理事長)、鶴飼雅則氏(精華町総務部企画調整課 プロジェクトコーディネーター)、瀬木健一氏(公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構 事業推進部長)、星屋泰二氏(きつづ光科学館ふおとん 館長代行)、山岡弘高氏(京都府立田辺高等学校 校長)を招聘する予定である。</p>				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学コミュニケーションとは何か? 2. トランス・サイエンスの領域に如何に挑むか 3. 科学コミュニケーションの実践例と効果(外国事例) 4. わが国における科学コミュニケーションの実践 5. 小括—受講生との意見交換会 6. 文化・科学一体的コミュニケーションの重要性と意義—特に関西学研都市において 7. 関西学研都市圏の歴史・現状 8. 筑波研究学園都市との比較 8. 関西学研都市圏における科学コミュニケーションの実践事例と成果(1) 				

9. 関西学研都市圏における科学コミュニケーションの実践事例と成果（2）
10. 関西学研都市圏における科学コミュニケーションの実践事例と成果（3）
11. 地域の初等・中等教育への影響と効果
12. 地域住民意識への影響
13. 関西学研都市の振興と未来
14. 文化・科学一体型コミュニケーションの実践と体験
- 15.まとめ

（成績評価の方法・基準）

講義テーマに関わる小論文試験をもって成績評価を行います。授業内容を踏まえた上で、科学コミュニケーションのあり方について、受講生自身が議論を展開できるかどうかの評価の基準となります。

（履修要件）

特になし

（教科書）

使用しない（授業中にレジュメ、資料等を配付する。）

（参考書）

授業中に紹介する